

法華経 日めくり

令和5年 癸卯

2023年

3月

1日

大安 柳

旧2月10日

水曜

妙法蓮華経序品第一

にゆう

お

じん

せん

入於深山

「山に入って自分を見つめる」

序品には菩薩道の一例として一人山にこもって
仏道を求める菩薩の姿が紹介されています。

私たちはよほど思い切らなければ山にこもって
仏道修行などできません。

山に入らなくても、ほんのひと時、世事から離
れて自分を見つめるだけでもよいのです。

目の前の出来事も、少し離れたところから見直
せば悩みも解きほぐれていくものです。

お寺が「山」だと思って入ってきてください。

法華経 日めくり

令和5年 癸卯

2023年

3月

2日

先勝 張

旧12月11日

木曜

妙法蓮華経序品第一

得とく五ご神通じんずう

「煩惱を滅すれば眞実が見える」

「五神通」とは①天眼通…常人に見えないものを見る眼 ②天耳通…常人に聞こえない音を聞く耳 ③他心通…他人の心を知る力 ④宿命通…過去世の記憶を知る力 ⑤神足通…超自然的な力。静かな処で心を落ち着かせる修行に励むと、煩惱がなくなり眞実が見えてくる。それが「五神通」を得る修行です。自分の都合で見たり聞いたり考えている私たちとは正反対なのが「得五神通」です。

法華経 日めくり

令和5年 癸卯

2023年

3月

3日

先勝 張

旧2月12日

金曜

妙法蓮華経序品第一

じょう え ぐ そく
定慧具足

「戒定慧の三学を具える」

「定」とは雑念を払い、精神統一をすること。

「慧」とは正しく真実の相を見究めること。

この二つに「戒」（悪をとどめ善を修すること）を加えた「戒・定・慧」を「三学」といいます。

この三学を常に意識して過ごしていれば、仏さまの智慧が具わってくるということです。

その智慧をもって他者のために働いても受け入れられないことがあるかもしれません。

その時は再度「三学」を見直してください。

法華経 日めくり

令和5年 癸卯

2023年

3月

4日

友引 翼

旧2月13日

土曜

妙法蓮華経序品第一

み じょう すい みん

未嘗睡眠

「未だ嘗(かこ)て睡眠せず」

「未嘗睡眠」とは、眠らずに修行をしたということですが、人間は寝ないで生きられません。修行中は心にゆるみがないように、常に緊張して臨むと考えるとよいでしょう。

私たち凡夫はどうしても怠けたくくなります。

また生半可な集中と緊張では仏さまの悟りを得ることはできません。

ただし緊張し続けて心の糸が切れないように、節度あるゆるみも時には必要です。

法華経 日めくり

令和5年 癸卯

2023年

3月

5日

先負 軫

旧2月14日

日曜

妙法蓮華経序品第一

いぎむけつ

威儀無欠

「威儀欠けることなく」

「威儀を正す」というと身なりを整えるという意味になります。仏教では行・住・坐・臥の「四威儀」を日常の立ち居ふるまいの基本として大切にしています。

「威」には人を感化させるという意味があります。清潔な身なり、和やかな表情、優しい言葉遣いなどが具わった人には、自然に人が従っていくものです。

肩肘張って威張るのが「威儀」ではありません。

法華経 日めくり

令和5年 癸卯

2023年

3月

6

日

啓蟄 仏滅 角

旧2月15日

月曜

妙法蓮華経序品第一

増上慢人

「おごり高ぶり心が凝り固まる」

「増上慢」とは完全に悟りを開いていないのに、悟りを開いたと思っておごりたかぶること。

法華経には随所に「増上慢」が登場します。

正しい教えを聞こうとしなかったり、正しい教えを説いている者に石を投げたりしています。

「増上慢」の心を解きほぐすのは困難です。

一度は放置して、何かのきっかけで自分で気づくのを待つしかありません。

それまで見守ってくださいるのが仏さまです。

法華経 日めくり

令和5年 癸卯

2023年

3月

7

日

大安 亢

旧2月16日

火曜

妙法蓮華経序品第一

施せ 仏ぶつ 及ぎつ 僧そう

「仏や層への布施を喜びとして仏道を歩む」

序品第一には、食物・薬・衣類・宝物・建物・寝具・庭など、さまざまな布施を仏さまや僧侶に施すことを自分の喜びとして、仏道を求める菩薩の姿が紹介されています。布施を受けた側は、法を説き、世の中のために役立てるよう努めます。布施がめぐりめぐって他者のためになる喜びと、布施によって貪る心を取り除き自分を清める喜びを感じてください。

妙法蓮華經序品第一

又見菩薩	勇猛精進	入於深山	思惟仙道	又見離欲
常處空閑	深修禪定	得五神通	又見菩薩	安禪合掌
以千萬偈	讚諸法王	復見菩薩	智深志固	能問諸仙
聞悉受持	又見仙子	定慧具足	以無量論	為衆講法
欣樂說法	化諸菩薩	破魔兵衆	而擊法鼓	又見菩薩
寂然宴默	天龍恭敬	不以為喜	又見菩薩	處林放光
濟地獄苦	令入仙道	又見仙子	未嘗睡眠	經行林中
勤求仙道	又見具戒	威儀無欠	淨如寶珠	以求仙道
又見仙子	住忍辱力	增上慢人	惡罵捶打	皆悉能忍
以求仙道	又見菩薩	離諸戲笑	及痴眷屬	親近智者
一心除亂	攝念山林	億千萬歲	以求仙道	或見菩薩
肴膳飲食	百種湯藥	施仙及僧	名衣上服	衲直千萬

法華経 日めくり

永寿会新年初参り

令和5年 癸卯

2023年

3月

8日

赤口 氏

旧2月17日

水曜

妙法蓮華経序品第一

説せつ寂じやく滅めつ法ぽう

「寂滅の法を説く」

「寂」とは静か、「滅」とは変化がなくなること。人は年をとるにつれて身体も考え方も変わってきます。世の中もまた変化します。人間社会の栄華がいつまでも続くわけではありません。どれだけ時が流れようとも変わらないもの、それは人を迷いから救い、導こうとする仏さまの教え「寂滅の法」です。その教えを説き、人のために尽くし、生かされ、生かし合う世の中にしていこうと導くのが菩薩の生き方です。

法華経 日めくり

令和5年 癸卯

2023年

3月

9

日

先勝 房

旧2月18日

木曜

妙法蓮華経序品第一

無^む有^う二^に相^{そう}

「二相有ること無し」

「二相」とは、自分だけがもつ「自相」と、他とも共通する「共相」のことで、転じて表裏二つのかたちを示しています。

「二相有ること無し」とは、表と裏の差別がないこと。

善人も悪人も、表に仏さまの心、裏に迷いの心を持っていきます。己を捨てて人のために尽くそうと、仏さまの心が現れたときには、誰もが仏に成り、表も裏もなくなるのです。

法華経 日めくり

令和5年 癸卯

2023年

3月

10日

友引 心

旧2月19日

金曜

妙法蓮華経序品第一

無^む数^{しゆ}恒^{ごう}沙^{しや}

「ガンジス川の砂の数ほどたくさん」

ガンジス川を「恒河」、その砂を「恒河沙」「恒沙」といい、無数の砂に例えて無限の数量を表します。今日では大きな数の単位として「恒河沙」は10の52乗とされています。さらにその上の単位の阿僧祇、那由他、不可思議、無量なども仏典に基づくもので、仏教の世界観が宇宙規模であることを物語っています。そして、恒沙の数ほどたくさんのお釈迦さまを統括しているのがお釈迦さまなのです。

法華経 日めくり

令和5年 癸卯

2023年

3月

11日

東日本大震災の日

先負 尾

旧2月20日

土曜

妙法蓮華経序品第一

い どう じゆ き

為当授記

「さだめて当に授記したもうべしや」

「授記」とは仏に成れると仏さまが請け負ってくださること。

仏さまからいただいた仏の種を大事に育てていけば、みな仏に成れるはずなのです。

法華経には仏に成るための道がたくさん示されています。法華経を読み、その教えを実践していけば、道に迷うことなく仏の悟りに辿り着ける。そう信じ切って歩むことが、授記をいただくことにつながるのだと思います。

法華経 日めくり

令和5年 癸卯

2023年

3月

12日

仏滅 箕

旧2月21日

日曜

妙法蓮華経序品第一

雨う大だい法ほう雨う

「大法の雨を降らす」

大きな花にも小さな花にも同じように雨が降り注ぎます。「雨を降らす」には平等に接するという意味があります。

私たちは相手が偉い人だと思いと丁寧な対応をしたり、立場が弱い人に上から目線でものを言ったりしてしまいがちです。

しかし、仏さまは相手の地位や理解の度合いによって態度を変えることなく、誰でも平等に導いてくださるのです。

法華経 日めくり

令和5年 癸卯

2023年

3月

13日

大安 斗

旧2月22日

月曜

妙法蓮華経序品第一

吹すい大だい法ほ螺ら

「大法の螺を吹く」

山伏が吹く法螺貝は、近くで聞いていると大きな音には感じなくても、遠くまでよく響きわたるといわれます。

その時は面白いと思っただ話も、後で思い出してみるとつまらない。逆に、久しく時間がたつてからその深い内容が身に染みて理解ができるということがあるでしょう。

仏さまの教えも法螺貝の音と同じようにいつまでも力を失わず遠くまで伝わるのです。

法華経 日めくり

令和5年 癸卯

2023年

3月

14日

赤口 女

旧2月23日

火曜

妙法蓮華経序品第一

撃ぎやく大だい法ほう鼓こ

「大法の鼓を撃つ」

太鼓の音と響きが遠くに伝わるように、仏法を伝えることのたとえです。

太鼓の音には、善いことをしようとするときにその音を聞くと心が奮い立つ「天鼓」、悪いことをする者がその音を聞くと震えあがる「毒鼓」の二種類があります。

善人の後押しをするとともに、悪人に悪事を自覚し反省させて、間違いを改めさせるのが仏さまの慈悲なのです。

妙法蓮華經。序品。第一

或有菩薩

說寂滅法

種種教詔

無數衆生

或見菩薩

觀諸法性

無有二相

猶如虛空

又見仏子

心無所著

以此妙慧

求無上道

文殊師利

又有菩薩

仏滅度後

供養舍利

又見仏子

造諸塔廟

無數恒沙

嚴飾国界

〔略〕

仏坐道場

所得妙法

為欲說此

為當授記

示諸仏土

衆宝嚴淨

及見諸仏

此非小縁

文殊當知

四衆龍神

瞻察仁者

為說何等

爾時文殊師利。語弥勒菩薩摩訶薩。及諸大士。善男子等。

如我惟忖。今仏世尊。欲說大法。雨大法雨。吹大法螺。

擊大法鼓。演大法義。諸善男子。我於過去諸仏。曾見此瑞。

放斯光已。即說大法。是故當知。今仏現光。亦復如是。

法華経 日めくり

令和5年 癸卯

2023年

3月

15日

先勝 虚

旧2月24日

水曜

妙法蓮華経序品第一

なん

しん

し

ほう

難信之法

「深く難しい教え」

熟練の職人が作った品物や、一流の料理人が調理した料理は、手間と時間をかけて素材の魅力を最大限に引き出したものです。そしてその技術を身に着けるまで何年もの厳しい修行があったはずです。本当に良いものは、奥が深く、手に入れるのは容易ではありません。

真実の教えも同じく深く難しいものです。仏さまの本心を理解しようとするのですから難しく当然。覚悟をもって臨みましょう。

法華経 日めくり

令和5年 癸卯

2023年

3月

16日

友引 危

旧2月25日

木曜

妙法蓮華経序品第一

にち

がつ

とう

みよう

ぶつ

日月燈明仏

「過去世に出現し法華経を説く先例となった仏」

仏の智慧によって一切の人の心を照らし、闇を取り除くという意味の名を持つ日月燈明仏。

序品にて、文殊菩薩は過去世の日月燈明仏のもとで、今と同じ瑞相を見た後に法華経を聴聞した時の経験を語り、次にお釈迦さまが法華経の説法をされると予言します。

過去・現在・未来の三世に渡りたくさんの日月燈明仏が出現したのは、その悟られたところの眞実は全く同一であることを示したものです。

法華経 日めくり

令和5年 癸卯

2023年

3月

17

日

先負 室

旧2月26日

金曜

妙法蓮華経序品第一

如来

によらい

「いつも来ている仏さま」

仏さまの徳を讃える尊称「十号」の一つ目。

「如」とは「いつでも」の意で、「如来」は「いつも来ている」という意味になります。

いつも来ているから、去ることもないし、どこからかやって来るといふこともないのです。

仏さまは私たちの心の中にいつも来ているのに、心が曇っているとそれに気づけなくなってしまいます。仏さまはいつもそばに來ているという心持で過ごすと悪いこともできませんね。

法華経 日めくり

令和5年 癸卯

2023年

3月

18日

彼岸入り

仏滅 壁

旧2月27日

土曜

妙法蓮華経序品第一

応供おうぐ

「供養に値する仏さま」

仏さまの徳を讃える尊称「十号」の二つ目。

「応供」とは供養に応じる、供養に値するということ。供養とは感謝の心を物や行為にして供えることです。

仏さまは人々を救ってくださいます。そこには認められたいとか、ほめられたいという気持ちはなく、一切の人を憐れむという大きな慈悲があるのみです。それが本当の感謝の心を供える供養に値するということなのです。

法華経 日めくり

令和5年 癸卯

2023年

3月

19日

大安 奎

旧2月28日

日曜

妙法蓮華経序品第一

しょうへんち
正徧知

「正しくあまねく知る仏さま」

仏さまの徳を讃える尊称「十号」の三つ目。

「正徧知」とは正しく、あまねく知ること。

すべてにわたる広い知識を持っていても、その使い方が分からなければ役に立ちません。

正しい目的意識をもって幅広い知識を整理し、世の中のために役立ててこそその知識です。

本当に正しいことを見極める智慧と森羅万象の全てに行きわたる知識とを具えているのが仏さまなのです。

法華経 日めくり

令和5年 癸卯

2023年

3月

20日

赤口 婁

旧2月29日

月曜

妙法蓮華経序品第一

みよう ぎよう そく
明行足

「知識と行動をともなつた仏さま」

仏さまの徳を讃える尊称「十号」の四つ目。

「明」は知識、「行」は行動、「足」はそろうこと。「明行足」は知識と行動がともなうこと。

善いことをしようとしても理屈が分かっ
なければ長続きしません。知識だけで行動が
もなわなければ知識を役立てられません。

仏さまは知識も行動も備えています。

私たちは仏さまを見習って、経験と失敗を繰り
返しながら「明行足」を目指しましょう。

法華経 日めくり

令和5年 癸卯

2023年

3月

21日

春分の日 彼岸中日

春分 先勝 胃

旧2月30日

火曜

妙法蓮華経序品第一

善逝

ぜん

ぜい

「境遇にとらわれない仏さま」

仏さまの徳を讃える尊称「十号」の五つ目。

「善」は完全、「逝」は世間にとらわれないこと。

「善逝」は完全に周囲の境遇にとらわれないことを意味します。

失意のときにも失望せず、得意のときにもうぬぼれず、世間の変化や世情に左右されない強い心を持つのは容易な事ではありません。

逆境に耐え、順境にもおごらない、人生経験を通して「善逝」を育みましょう。

妙法蓮華經。序品。第一

爾時文殊師利。語弥勒菩薩摩訶薩。及諸大士。善男子等。如我
惟忖。今仏世尊。欲説大法。雨大法雨。吹大法螺。擊大法鼓。
演大法義。諸善男子。我於過去諸仏。曾見此瑞。放斯光已。

即説大法。是故當知。今仏現光。亦復如是。欲令衆生。咸得聞
知。一切世間。難信之法。故現斯瑞。諸善男子。如過去無量無
辺。不可思議。阿僧祇劫。爾時有仏。号日月燈明如來。忘供。

正徧知。明行足。善逝。世間解。無上士。調御丈夫。天人師。

仏。世尊。演説正法。初善。中善。後善。其義深遠。其語巧妙。
純一無雜。具足清白。梵行之相。為求声聞者。説忘四諦法。度
生老病死。究竟涅槃。為求辟支仏者。説忘十二因縁法。為諸菩
薩。説忘六波羅蜜。令得阿耨多羅三藐三菩提。成一切種智。次
復有仏。亦名日月燈明。次復有仏。亦名日月燈明。如是二万
仏。皆同一字。号日月燈明。又同一姓。姓頗羅墮。弥勒當知。

法華経 日めくり

令和5年 癸卯

2023年

3月

22日

友引 奎

旧閏2月1日

水曜

妙法蓮華経序品第一

世^せ間^{けん}解^げ

「違う境遇を理解して救済する仏さま」

仏さまの徳を讃える尊称「十号」の六つ目。

「世間解」とは、世間の人々の性格や能力を知りつくした上で、救済してくださる仏さまのことを指します。

人は自分の経験をもとに他人の事情を推測して批判しがちです。境遇が違えば利害得失が生まれ、自分の都合で相手を見てしまいます。

それぞれの違う境遇を理解して、思いやりをもって人に接したいものです。

法華経 日めくり

令和5年 癸卯

2023年

3月

23日

先負 婁

旧閏2月2日

木曜

妙法蓮華経序品第一

無^む上^{じょう}士^じ

「この上なき仏さま」

仏さまの徳を讃える尊称「十号」の七つ目。

「この上なき者」の意で、最高の者、すなわち上に立つ者がいない仏さまのことを指します。

「無上の喜び」というと「この上ない喜び」を表す言葉です。苦勞して努力を重ね、大きな達成感を味わったときに感じる最高の喜びは、まさに「この上ないもの」です。

「この上なき者」である仏さまも、きつとともに喜んでくださっていることでしょう。

法華経 日めくり

令和5年 癸卯

2023年

3月

24日

彼岸明け

仏滅 胃

旧閏2月3日

金曜

妙法蓮華経序品第一

ちょうごじょうぶ
調御丈夫

「確実に教え導いてくださる仏さま」

仏さまの徳を讃える尊称「十号」の八つ目。

「調御」「調べ御す」とは象や馬を調教すること。「丈夫」は確実なこと。

「調御丈夫」は、どんな悪人・愚人でも確実に教え導いてくださる仏さまを指します。

決してあきらめず、見放すことなく導いてくださる仏さまを信じ、私たちもあきらめることなく仏さまが導く声をたよりに、仏道修行に励みましょう。

法華経 日めくり

令和5年 癸卯

2023年

3月

25日

大安 昴

旧閏2月4日

土曜

妙法蓮華経序品第一

天人師

「天人たちの師である仏さま」

仏さまの徳を讃える尊称「十号」の九つ目。

天上界は悩みや憂いのない世界です。

しかし苦勞が全くなければ、満足を得ることができません。空虚な気持ちで日々を送ることになるのではないかと想像します。

そこで天人たちも仏さまを師として教えを学び、他者のために役に立つことを悦びとしたいと努めます。天上界の神々が仏教を受持する人々を守護してくださるのもそのためです。

法華経 日めくり

令和5年 癸卯

2023年

3月

26日

赤口 畢

旧閏2月5日

日曜

妙法蓮華経序品第一

仏ぶつ世せ尊そん

「覚者として世の人が尊ぶ仏さま」

仏さまの徳を讃える尊称「十号」の十個目。

「仏」とは覚った者、「世尊」とは世の人が尊ぶこと。「仏世尊」とは最高の悟りを開いて世の人々から仰ぎ尊ばれる存在を表す尊称です。

仏の「十号」は仏さまの徳を讃える尊称であるだけでなく、私たちに足りない徳を示したものであり、修行上の目標とする徳目です。

ですから、仏さまのようにありたいと念じ「十号」を添えて仏さまのお名前を呼ぶのです。

法華経 日めくり

令和5年 癸卯

2023年

3月

27

日

先勝 鶯

旧閏2月6日

月曜

妙法蓮華経序品第一

しょ ぜん

ちゅうぜん

ご ぜん

初善

中善

後善

「初めも、中ごろも、終わりも完全」

仏さまが正しい教えを説かれるとき、初めも、中ごろも、終わりも完全ということ。

初心者には浅く易しいことから説き、中級・上級と進むにつれて深く難しいことを教えるのが普通です。

仏さまの場合は、初心者にも深く完全な教えを易しく説きます。興味を引くための世間話で済ますことはありません。わかりやすい譬え話も深い悟りへと導くための配慮なのです。

法華経 日めくり

令和5年 癸卯

2023年

3月

28日

友引 参

旧閏2月7日

火曜

妙法蓮華経序品第一

しょうもん

声聞

「仏さまの声を聞き世間にとらわれない心を作る」

「声聞」は仏さまの声を聞いて、世の中にとらわれない心持ちをつくる修行者です。

自然の移り変わりも、人それぞれの境遇も一つにとどまることがない「無常」なものです。

自分が置かれた境遇に満足できないときには、自分の心の中に満足を求めるしかありません。無常の世の中で、どんな境遇にも迷うことなく適応できるようにと修行するのが声聞です。それでも声聞は初歩の修行者なのです。

妙法蓮華經。序品。第一

〈略〉

爾時文殊師利。語弥勒菩薩摩訶薩。及諸大士。善男子等。如我
惟忖。今仏世尊。欲説大法。雨大法雨。吹大法螺。擊大法鼓。
演大法義。諸善男子。我於過去諸仏。曾見此瑞。放斯光已。
即説大法。是故當知。今仏現光。亦復如是。欲令衆生。咸得聞
知。一切世間。難信之法。故現斯瑞。諸善男子。如過去無量無
辺。不可思議。阿僧祇劫。爾時有仏。号日月燈明如來。応供。
正氣知。明行足。善逝。世間解。無上士。調御丈夫。天人師。
仏。世尊。演説正法。初善。中善。後善。其義深遠。其語巧妙。
純一無雜。具足清白。梵行之相。為求声聞者。説応四諦法。度
生老病死。究竟涅槃。為求辟支仏者。説応十二因縁法。為諸菩
薩。説応六波羅蜜。令得阿耨多羅三藐三菩提。成一切種智。次
復有仏。亦名日月燈明。次復有仏。亦名日月燈明。如是二万

法華経 日めくり

令和5年 癸卯

2023年

3月

29日

先負 胃

旧閏2月8日

水曜

妙法蓮華経序品第一

四諦法し たい ほう

「苦しみを徹底的にあきらかにする方法」

境遇にとらわれない心をつくろうという声聞のために説かれたのが「四諦法」です。

「苦」は不満足・思い通りにならないこと

「集」は煩惱の集まり・苦しみの原因のこと

「滅」は迷いを滅した状態

「道」は悟りに入るための方法手段

この「苦集滅道」の四つを徹底的に諦らかにすることによって、悩みや苦しみから解き放たれることを目指すのが「四諦法」です。

法華経 日めくり

令和5年 癸卯

2023年

3月

30日

仏滅 鬼

旧閏2月9日

木曜

妙法蓮華経序品第一

辟支仏ひやくしぶつ

「一人で修行に努める者」

「辟支仏」は「縁覚」ともいわれ、縁によって覚る修行者のことをいいます。

声聞のように仏さまの教えを聞くだけでなく、自分が出会う日常の事柄と思い合わせて、世の中の変化を見つめ、無常にとらわれないように生きようと覚悟を定める者です。

辟支仏は一人で修行に努め、他人を教え導かないため、声聞と共に二乗と呼ばれ法華経以前は仏の悟りには至れないとされてきました。

法華経 日めくり

令和5年 癸卯

2023年

3月

31日

大安 柳

旧閏2月10日

金曜

妙法蓮華経序品第一

十二因縁法

「辟支仏（縁覚）の修行法」

一人で修行する辟支仏（縁覚）のために、苦の発生の原因とそれを減する方法を説いたもの。迷い（無明）、行い（行）、もって生まれた性質（識）、体と心（名色）、眼耳鼻舌身意の六根（六入）、感覚（触）、感情（受）、愛憎の念（愛）、選択（取）、差別（有）を抱き、生き（生）、老いて死ぬこと（老死）。この十二因縁を繰り返す凡夫の一生から離れることを徹底的に求める修行法です。

妙法蓮華經。序品。第一

〈略〉

法華經 日めくり 令和5年(2023)3月⑤

爾時文殊師利。語弥勒菩薩摩訶薩。及諸大士。善男子等。如我
惟忖。今仏世尊。欲説大法。雨大法雨。吹大法螺。擊大法鼓。
演大法義。諸善男子。我於過去諸仏。曾見此瑞。放斯光已。
即説大法。是故當知。今仏現光。亦復如是。欲令衆生。咸得聞
知。一切世間。難信之法。故現斯瑞。諸善男子。如過去無量無
辺。不可思議。阿僧祇劫。爾時有仏。号日月燈明如來。忘供。
正氣知。明行足。善逝。世間解。無上士。調御丈夫。天人師。
仏。世尊。演説正法。初善。中善。後善。其義深遠。其語巧妙。
純一無雜。具足清白。梵行之相。為求声聞者。説忘四諦法。度
生老病死。究竟涅槃。為求辟支仏者。説忘十二因縁法。為諸菩
薩。説忘六波羅蜜。令得阿耨多羅三藐三菩提。成一切種智。次
復有仏。亦名日月燈明。次復有仏。亦名日月燈明。如是二万